

2024  
春号

富山大学ニューズレター spring.2024. vol.10

富山  
大学

# News Letter

富山大学HP

X (旧Twitter)

YouTube



## Contents

P.1 芸術文化図書館、リニューアルオープン!  
P.4 研究紹介  
P.5 受賞紹介

P.6 富大ニュース  
P.8 富山大学基金へのご寄附のお願い



クローズアップ  
特集  
Close-up

## 芸術文化図書館、 リニューアルオープン!

昨年5月、芸術文化図書館がリニューアルオープン。ディスカッションもおしゃべりもOKなスペース、ユニークな企画展が期待できるギャラリー、大きな机を占有して大型の資料を広げられるスペースなど。「こんなこともできる」が、いくつも加わりました。特集では、芸術文化学部ならではの改修ポイントやコンセプトにも着目し、生まれ変わった芸術文化図書館をクローズアップします。

# 本を納める建築から、 知識を生み出す建築へ。

「図書館の役割は？ 本を収蔵するところ？ 本を閲覧するだけの場所？」

いや、そうじゃない！ 図書館は本だけじゃない。改修に関しては、これが基本的な考え方でした」。

上原雄史館長から開口一番に出てきた言葉です。

そこにはどんな思いが込められているのか。改修前後で、図書館はどう変わったのか。

建築士でもある上原雄史館長に、お話をうかがいながら、

リニューアル後の気になる館内についても紹介していきます。



芸術文化図書館長 上原 雄史 教授

POINT  
01

## 念願だった「展示ギャラリー」を新設

改修コンセプトは、学生たちが能動的に学習し、創出した知識を公開し、広めることを「目指す場所」です。本を収蔵し公開するだけでなく、知識が広がる場、絵画や彫刻、漆、建築、まちづくりの研究といった芸術文化学部の存在意義を確認できる場でもある。そんな図書館にしたいと考えました。

特に、新しく設置した展示ギャラリーは、高岡短期大学時代からずっと構想があり、念願がかなったスペース。芸術文化学部の知識をさまざまな形で公開し、美術館でも博物館でもない活動を進めていきたいと思っています。



ギャラリー「キューブ」で現代芸術家、片山初音によるインスタレーション《Lake/Hole》を展示

POINT  
02

## 階段下も新たなスペースに有効活用

図書館は高岡短期大学時代の建物で、増床は厳しい状況でした。そこで、それぞれ約100㎡のアクティブラーニングスペースと共創空間、さらに約50㎡の展示ギャラリーを加えるため、開閉書架を約350㎡に、閲覧室を約150㎡に、それぞれ50㎡ずつ縮小して施設全体を再構成しました。

さらに、これまで通路だった階段下もゼミなどに使える開放的なスペースに活用しています。また、バリアフリーを目的としてエレベーターや多目的トイレも新たに備えることができました。



通路だった階段下のスペースをゼミなどの少人数で利用できる開放的なスペースに活用(Cラボ)

POINT  
03

## 「もったいない」の発想を新たな価値に

テーブルや椅子などの備品は、35年ほど経っていますが、学生たちがとても丁寧に使ってきたものばかりです。そこで、椅子を張り替えたり、テーブルの幅や脚を使いやすく変えるなど、「もったいない」を徹底して新しい命を吹き込むことにしました。

既存の価値あるものたちは継続的に使い、文化を強化すること。これは、改修プロジェクトの重要なミッションでもあります。

また、正面入り口の書架は学生と教員でデザインしたものです。企画展示のほか、大きなテーブルとしても使えるよう工夫されている。こういった点も、知識公開の一部です。

POINT  
04

## 地域に発信できる図書館を目指す

玄関ホールはオープンフロアの共創空間で、開放的なゾーン、ガラスの部屋、閉じられた部屋の3つのスペースで構成。共創空間とギャラリーは閲覧室が閉じていても利用できるようになっています。

大学と地域の交流の場として、また地域に開いた図書館としてこれから段階的にプログラムを展開していきます。



# 新しくなった12のこと

1階は、共創空間、ギャラリー、ラーニングスペース、事務室があります。

2階は、書架が並び、カウンター席や自習テーブルを配置。リラックスして利用できるスペースになっています。



## 1 コミュニケーションエリア (1F) 2 サイレントエリア (2F)

1階は話してOK!

2階はガラスに守られた静寂空間。



## 3 展示ギャラリー「キューブ」

蔵書とコラボレートするなど、図書館内にあることを活用した展示が可能。



## スタディ

大型本を広げてもゆとりのある大きな机を占有して利用できる。



## 4 雑誌架

ゲート左には新着雑誌、エレベーター前にはバックナンバーがある。



## 5 展示架

教員と学生によるワークショップでデザインが決定。新着図書の紹介、企画展示を行う。



## 6 自習テーブル

電気やコンセントがあり、飲食も可能。シンボルツリー「つままの木」が育つ広場を望むことができる。

## 7 アクティブラーニングスペース

話しても良い空間。少人数、グループでもディスカッションできる。

## 8 Cゾーン

入ってすぐの場所にあるオープンなフロア。イベントの開催など共創空間として活用できる。

## 9 Cラボ

解放感あるガラス張りで、ゼミやグループなど少人数向けの部屋。Cゾーンと併せての利用も可能。

## 10 様々な閲覧環境

キャレル机でじっくりと。カウンター席や自習テーブルでリラックス。大きな机でぜいたくに資料を広げる。活用法は自由。

## 11 Cルーム

2階の階段左。ゼミや少人数での利用向き。

## 12 飲食できるスペース

1階Cゾーンと2階渡り廊下自習テーブルでは飲食が可能。勉強の合間にリフレッシュできる。

### 【利用案内】

- 開館時間 月～金曜日 8:45～20:00、土曜日 10:00～16:00  
(休業期間中の月～金曜日は9:00～17:00)
- 休館日 日曜日、祝日、休業期間中の土曜日
- 学外の方 富山県に在住の方か職場のある方に利用証を発行  
(手続きには運転免許証・保険証等、住所・氏名が分かるものが必要)

詳しくは

富山大学芸術文化図書館ホームページ  
<https://www.lib.u-toyama.ac.jp/art/>

QRコードはコチラから



# 富山県道路カメラ画像の積雪有無を判定するAIの開発

学術研究部 都市デザイン学系 准教授 立石 良

昨年11月、富山県の道路情報システムに、路面の積雪有無を判定するAIが導入され、積雪状況が「見てわかる」ようになりました。富山大学とNTTデータ北陸が共同開発したAIについて、立石良准教授とAIモデルを構築した西嶋音々さん（都市デザイン学部4年）にお話をうかがいました。

## ● 開発に至った背景は？

### 道路の積雪状況をもっとわかりやすく

**立石** 富山県道路情報のホームページには、県内約160カ所にある監視カメラ画像が公開されていたのですが、もう少し分かりやすく使いやすくないかというのが発想の出発点です。10分ごとに更新される画像データとAIを組み合わせれば、渋滞や積雪状況の把握にも役立つと考え、県土木課に相談したところ、「2021年の豪雪を受け、冬期の監視カメラ画像の活用を検討している」と関心を持ってもらいました。

AI導入後、積雪があると地図上のカメラのアイコンが濃い青色に変化し、積雪状況がひと目でわかるようになりました。このAIモデル構築に研究活動として取り組んでくれたのが、西嶋さんです。



赤い部分が「雪あり」とAIが判定した箇所（道路の輪郭を概ね正確に抽出している）



●富山県道路情報  
<https://toyama-douro.toyama.toyama.jp>

## ● AIの構築はどのように？

### 画像データで積雪の有無を繰り返し学習

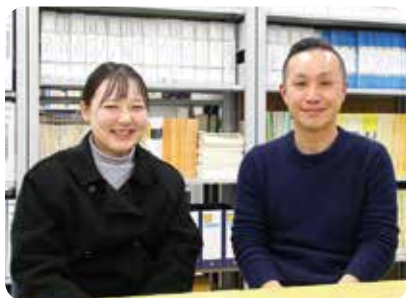
**西嶋** 積雪があるかないか、道路カメラの画像をAIに読み込ませて学習を繰り返しました。画像は、何でもいわけではない、積雪状況は時間帯や場所、市街地であれば融雪装置や除雪状況で大きく変わってきます。このため、昨冬以降1日約2万枚ダウンロードしてきた道路カメラ画像から、必要と思われる画像を目で見て選び出しました。そのかいあって、検証では平均正解率85.5%、雪なしは100%という結果を得ることができました。特にうれしかったのは、雪の有無に関わらず、道路の輪郭をほとんど正確に抽出できた時ですね。雪が降ると道路と側溝の境界が曖昧になり、人間の目でも見分けるのは難しいのに、ちゃんと理解してくれていました。

**立石** 西嶋さんは、AIを『優秀な子』に育ててくれました（笑）

## ● 今後の活用は？

### 積雪以外の情報発信にも期待！

**立石** AIモデルの精度向上に加え、同様の手法を用いて積雪以外の道路情報を把握できないかも検討していきます。



例えば、先日の能登半島地震発生後、避難車両による道路渋滞が起きました。道路監視カメラの画像データから、通過台数、避難方向などを時系列で詳しく検証すれば、今後の避難計画にも役立つと考えています。

積雪以外では、桜の開花がわかるというのもいいですね。また、富山は虹がよく出現するので、道路情報システムのモニター画面に桜や虹のアイコンを表示するのも彩りがあって良いかもしれません。

道路カメラの画像から得られる情報とAIを組み合わせることで何が生まれるのか。可能性は、まだまだあると思っています。ご期待ください。



祝

受賞者一覽

2023年8月～12月

令和5年度和漢医薬学会  
学術貢献賞

2023年8月26日～27日

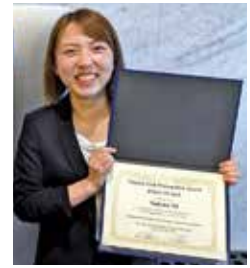
和漢医薬学総合研究所  
生体防御学領域 教授  
早川 芳弘



第7回富山・バーゼルジョイント  
シンポジウム口頭発表賞

2023年8月29日～30日

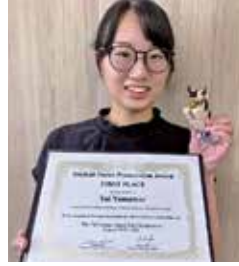
医学薬学教育部博士後期課程  
薬科学専攻3年  
井城 綸沙



第7回富山・バーゼル  
ジョイントシンポジウムポスター賞

2023年8月29日～30日

医学薬学教育部博士後期課程  
薬科学専攻2年  
山前 結



第30回日本免疫毒性学会学術年会  
年会賞

2023年9月11日～13日

和漢医薬学総合研究所  
生体防御学領域 助教  
薄田 健史



日本時間生物学会  
第21回奨励賞

2023年9月15日～17日

学術研究部理学系  
助教  
森岡 絵里



World Congress on Micro and  
Nano Manufacturing 2023

貢献賞 (Session Co-Chair) および  
Honorable Mention Paper Award

2023年9月18日～21日

学術研究部工学系 助教  
船塚 達也



日本金属学会  
論文賞

2023年9月20日

学術研究部都市デザイン学系  
准教授  
李 昇原



第90回記念独立展  
協会賞

2023年10月18日

芸術文化学部美術・工芸コース4年  
浦野 聖菜



ミニ四駆 企業・団体対抗  
G-1 GP 2023 準優勝

2023年10月28日

工学部創造工学センター  
ミニ四駆プロジェクト



日本健康心理学会  
アーリーキャリアヘルスサイコロジスト賞

2023年12月3日

学術研究部人文科学系  
講師  
飯島 有哉



第77回富山県医学会  
優秀賞 金賞

2023年12月3日

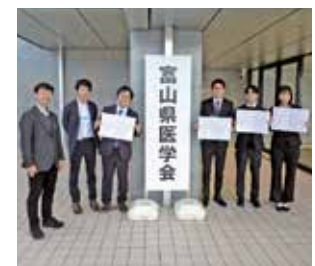
医学部医学科3年  
新野 遥人



第77回富山県医学会  
優秀賞

2023年12月3日

医学部医学科4年  
杉谷 麻友 椎名 哲雄  
大学院博士課程  
渡辺 一海





## 大学院博士課程を改組



令和6年4月、大学院博士課程・博士後期課程を再編し、新たな総合医薬学研究科、理工学研究科、医薬理工学環が設置されます。

大学院の改組については、令和4年4月に修士課程を再編し、文系や理工系、医薬系の学問が連携・融合した新しい体制を整備したところです。



詳細はこちら →

## 軽金属材料共同研究棟 開所式を実施



10月23日、高岡キャンパス内に建設された「軽金属材料共同研究棟」の開所式を実施しました。式典では、建設にご尽力いただいた関係者に対し齋藤学長から感謝状の贈呈が行われたほか、式典後には装置等の見学会も行われました。この研究棟は、経済産業省「産学連携推進事業費補助金（地域の中核大学の産学融合拠点の整備）」事業、富山県及び高岡市からの補助金や、企業・団体からの寄附金等によって建設されたもので、今後、アルミニウムリサイクルの研究及び資源循環型社会モデルの拠点となることを目指します。

## 経済学部4年生の論文が 月刊誌「北陸経済研究」に掲載



経済学部4年生の黒岩海斗さん、宝田梨沙さん、水馬優花さんの論文「富山県の人口減少問題に向けた課題と取り組み－若年女性と産業構造との関連を中心に－」が、北陸経済研究所の月刊誌『北陸経済研究』2023年12月号に掲載されました。学生の論文が同誌に掲載されることは珍しく、発行に先立ち行われた同研究所主催の記者発表では、県内で就職する学生の増加を図るため、企業主体の奨学金返還助成制度や女性の管理職登用促進などについて提言しました。12月6日、3名は同誌を携えて森口経済学部長を表敬訪問し、掲載の報告を行いました。



## 富山大学学長賞 「未知に挑む女性研究者賞」を授与

12月12日、五福キャンパス黒田講堂ホールにて開催された「令和5年度ダイバーシティ・シンポジウム」にて、優れた成果を挙げた本学女性研究者2名に対し、齋藤学長から「未知に挑む女性研究者賞」が授与されました。

女性研究者部門を受賞した和漢医薬学総合研究所の楊熙蒙(ヤンシモン)助教は、破綻した脳の神経回路を再形成するためのアルツハイマー病の新規治療戦略の開発について研究紹介を行い、女子学生部門を受賞した大学院医薬学教育部3年の井城繪沙さんは、骨格筋萎縮により誘発される認知障害発症メカニズムの解明についての、研究成果を発表しました。学長からは「女性研究者のロールモデルとして今後の活躍に大いに期待します」とエールが送られました。



## 「2023 オレゴンカップ 英語プレゼンテーションコンテスト」を開催

12月17日、富山県と米国オレゴン州が主催する「2023オレゴンカップ英語プレゼンテーションコンテスト」が開催されました。このコンテストは富山県とオレゴン州の友好提携30周年を記念して2022年から始まったものです。今回は「ポストコロナの世界を創造する」をテーマに全10チームが参加、両県州の大学生等が協力して作成した資料によりプレゼンテーションが行われました。本学からも多数の学生が参加し、高い評価を得ました。

(本学受賞者)

優秀賞及び特別賞(富山日米協会賞): 本馬愛美さん(理学部)・高木梨帆さん(人文学部)

優秀賞: 住田理沙さん(芸術文化学部)・望月華さん(芸術文化学部)・稲垣智也さん(大学院・持続可能社会創成学環)・中川陽さん(理学部)



## 芸術文化学部が 輪島漆芸技術研修生を受け入れ

芸術文化学部は、石川県輪島市の輪島漆芸技術研修所研修生の受入れを開始し、1月29日には3名の研修生が到着し制作活動を開始しました。最終的には8名の研修生受入れを予定しています。

同研修所には、約40名の研修生が在籍し、最終学年の17名が卒業制作の最終段階を迎えていましたが、1月に発生した能登半島地震により制作活動が困難となりました。芸術文化学部では大学施設の提供、漆芸教員の指導協力、宿泊場所の確保などの体制を整え、研修所に受け入れを打診しました。研修生は3月末まで滞在し、卒業制作の作品を仕上げる予定です。今後も引き続き、大学としてできる限りの被災地支援を続けてまいります。



## 手術支援ロボット da Vinci (ダ・ヴィンチ) の新規導入

附属病院では、最新の手術支援ロボットda Vinci(ダ・ヴィンチ)Xiサージカルシステムを2016年に導入し、泌尿器科、消化器外科、呼吸器外科、婦人科の手術に使用してきました。現在では、ロボット手術で実施可能なほとんどの術式を網羅するに至っています。

このたび、さらに多くの患者さんにロボット手術を受けていただけるよう、ダ・ヴィンチを新たに導入、2台体制となりました。一つの病院で手術支援ロボットを2台稼働させるのは、富山県では初となります。今後、ますます多くの患者さんに安全・安心で低侵襲な最先端の医療を提供してまいります。

# 富山大学基金へのご寄附のお願い

富山大学基金は平成24年に本学の理念・目標である「高い使命感と創造力のある人材育成、地域と世界に向けて先端的研究情報の発信、地域と国際社会への貢献を推進するため本学の学生修学、教育研究等に係る各種事業を支援すること」を目的に設立されました。今後も本基金の趣旨にご理解を賜り、格別のご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 基金の種類

### 一般基金

本学が行う学生修学・教育研究等に係る各種事業の一層の充実を図ります。

### 特定基金

各部局等が実施する使途を特定した事業への支援に役立てられます。

### リサイクル募金

読み終えた本・DVD・ブランド品等の査定換金額が寄贈される取組です。

- 修学支援基金
- 研究等支援基金
- 課外活動支援基金
- 工学部基金
- 医学部基金

## 寄附の方法

インターネット  
でのご寄附



銀行・ゆうちょ銀行  
からのご寄附



遺言  
によるご寄附



「ほくリンクポイント」  
でのご寄附



## 基金の活用事例

富山大学基金にご寄附いただいた皆様に感謝申し上げます。



【課外活動支援基金】  
ヨット部



【一般基金】  
短期海外英語研修支援事業

## 寄附特典

○寄附合計額に応じて謝意品をお渡しします。



- 税制上の優遇措置が受けられます。  
本学が発行する「寄附金受領証明書」を添えて確定申告により手続きをお取りください。
- 銘板等にご芳名を掲載いたします。

## 寄附者ご芳名 (令和5年4月～令和5年9月)

寄附者のご芳名は五福キャンパス事務局棟玄関フロア及び富山大学基金ウェブサイトでもご紹介しております。

### 【個人】 (50音順にて記載 敬称略)

足立 雄一 五十嵐 修 泉 雅人 笠谷 均志 片岡 弘 犀藤 一枝 下敷領 強  
竹村 樹里 武山 良三 遠山 和大 豊田 葉子 中山 和也 長谷川直樹 堀口 旺汰  
前田 等 宮 一志 森口 毅彦 森山 健三 吉越 勝彦 和田 直也 (ほか公表辞退 24名)

### 【企業・法人等】 (50音順にて記載 敬称略)

一般財団法人立仁会 富山大学生生活協同組合 北陸電力株式会社 (ほか公表辞退 1社)



ご寄附のお申し込み、お問い合わせは  
富山大学広報・基金室にお願いいたします。  
問合せ先：富山大学 総務部 総務課 広報・基金室  
TEL: 076-445-6178 E-mail: kikin@adm.u-toyama.ac.jp  
URL: <https://tomidaikikin.adm.u-toyama.ac.jp/>

発行／国立大学法人 富山大学  
編集／富山大学広報委員会  
問合せ先／〒930-8555 富山市五福3190番地  
TEL: 076-445-6028 FAX: 076-445-6063  
E-mail: kouhou@u-toyama.ac.jp